

## 「県政タウンミーティング」会議録

テーマ 『新たな総合5か年計画「20年後の長野県を考えよう」』

サブテーマ

- ①長野県の誇る健康・長寿について
- ②長野県を支える産業について
- ③みんなが憧れる長野県での暮らしについて

日時 平成24年4月27日（金）午後6時から8時まで

場所 県庁 講堂

目次

1	事前説明 .....	1
	テーマと目的等の説明 .....	1
	ワールド・カフェの説明 .....	1
	流れの説明 .....	1
2	知事あいさつ .....	1
3	第1ラウンド開始 .....	4
4	ワールド・カフェ方式による意見交換 .....	4
5	まとめ発表 .....	4
	(1) グループ1 テーブルD .....	4
	(2) グループ1 テーブルA .....	5
	(3) グループ2 テーブルC .....	6
	(4) グループ2 テーブルE .....	6
	(5) グループ3 テーブルC .....	7
	(6) グループ3 テーブルD .....	8
	(7) グループ3 補足意見 テーブルA .....	8
6	全体意見交換 .....	8
	(1) 参加者の意見1 .....	9
	(2) 参加者の意見2 .....	9
7	知事あいさつ .....	9

## 1 事前説明

### 【司会】

皆様、大変お待たせいたしました。本日は、大変お忙しいところ「県政タウンミーティング」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。私は、本日の司会進行役を務めさせていただきます広報県民課長の角田道夫と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

まず、本日の進行につきまして、私から若干説明させていただきます。

最初に、阿部知事から「ごあいさつ」を申し上げまして、その後、『新たな総合5か年計画「20年後の長野県を考える」』をテーマに意見交換をしていただきます。

あらかじめ申し上げますが、本日のこの集会でのご発言につきましては、お名前などの個人情報を除き、後日、県のホームページに公開させていただきますので、ご了解をお願いいたします。

### テーマと目的等の説明

本日のテーマは『新たな総合5か年計画「20年後の長野県を考える」』です。現在準備を進めている「新たな総合5か年計画」の策定に向けて、県民の皆さんから幅広いご意見・ご提言をいただく場として開催しました。

### ワールド・カフェの説明

様々なお立場から、いろいろなアイデアを伺うために、ワールド・カフェという方法で意見交換を行っていただきます。

テーブルごとに行いますので、ご自身とは異なる意見についても、反論したり否定したりするのではなく、ご自身の考え方との共通点や接点を探しながら、リラックスして意見交換をなさってください。

### 流れの説明

次に、本日の流れをご説明します。

まず、20分から30分程度の意見交換を3回・3ラウンド行っていただきます。第1ラウンドでは、現在皆さんが座っているテーブルで、その後、席を移動して第2ラウンド、再び元のテーブルで第3ラウンドというように進めます。

最後に、いくつかのテーブルの方に、テーブルごとの意見交換の結果を発表していただいてから、全体で意見交換を行います。

以上が本日の話し合いの流れです。

## 2 知事あいさつ

### 【長野県知事 阿部守一】

皆さんこんばんは。金曜日の週末のですね、明日から休みだという方も多いと思いますが、そういう時間帯にですね、大勢の県民の皆さんにご参加をいただいて、このタウンミーティングが開かれることを、私としては、大変ありがたく、そしてうれしく思っています。ご参加いただいた皆様方に心から感謝を申し上げたいと思います。

今日は、タウンミーティング19回目ということのようですが、就任以来、県民の皆さんとできる限り直接お話をしようということでやってきました。前回までで1,455名の皆さんに延べ参加をしていただいたということで、これからもっともっと、こうした機会を私も増やしていきたいと思っておりますが、実は今回はこれまでと違って、今まさに長野県の最も重要な課題である中期計画について、ぜひ皆さんのアイデアをですね、どんどんいただきたいということで、「20年後の長野県を考える」というテーマで、今回開催をさせていただきました。

グループが、3つに分かれていますね。「長野県の誇る健康・長寿について」、それから「長野県を支える産業について」、「みんなが憧れる長野県での暮らしについて」で、まず私としてはやはり「健康・長寿」、この間、つい最近発表された年齢調整死亡率、平均寿命は男性1位。これまで女性は5位ということでしたけれども、今回は女性も1位と。やはりこれから女性の時代になる中で、私としては男性も女性も1位だということは大変ありがたいし、ぜひこの傾向を続けていきたいなというふうに思っています。健康・長寿の長野県というふうにいわれるわけですがけれども、私は健康・長寿と言われるということは大変誇りに思っています。というのは、例えば、どこかの具体的な県を言えば問題があるから差し控えますけれども、景色がきれいな何とか県ですとかね、食べ物がおいしい何とか県とかですね、長野県は、景色も食べ物もおいしいと思えますけれども、健康・長寿って人が頑張っ、長野県、昔から健康・長寿でなかったですよ。地域の皆さん、医療関係者の皆さん、保健師さん、保健指導員の皆さん、病院の皆さん、あるいは普通の県民の皆さん、皆さんが努力した結果、この健康・長寿という冠を、大勢の人から付けてもらっているわけで、これは私、長野県としては他の県に誇れる、健康・長寿だということ自体もそうですけれども、そうしたことをですね、人との取り組みとして行ってきたということは大変誇れるし、ぜひこれからもですね、何というか、物があるからということではなくて、県民が皆でこれをやってこういう県になったよということ、ぜひ私は皆さんと一緒に行いたいと、そういう意味で健康・長寿というのは一つのシンボルだというふうに思っています。

それから「産業」、長野県も税収はほとんど伸びてないです。何十年前前は、今年よりは来年、来年よりは再来年、確実に税収が伸びるし、経済も発展するし、そういうある意味で、物の豊かさという点では非常に恵まれた時期を日本は経過してきましたけれども、これからは中々そんなにほっといて、経済が発展する、産業が元気になるという時代ではないです。ですから、世の中の動向をしっかりと見極めてですね、やはり創意工夫をして、長野県の産業をどうしていくかということを実際に、これは官民一体でというかな、行政だけでも駄目ですし、企業の皆さんだけでもやはり限界を感じられるところがあると思うので、ぜひ全ての県民の皆さんと一緒にこの産業をどうするか、産業といっても広いですが、製造業もあれば、観光業もあれば、サービス業もあれば、建設業もあれば、農林業もあれば、いろいろな産業があります。ぜひこの産業、産業が元気でなければ、私たちの暮らしを支える基盤も非常に弱くなってしまいますので、ぜひそうした観点でご議論いただければと思います。

それから3つ目が「みんなが憧れる長野県での暮らし」、あえてみんなが憧れると付けていますけれども、私は東京の暮らしも、あるいは長野県以外

でも暮らしたことがあります、実はこれからの社会のあり方を考えた時には、私たちの長野県は本当に他の地域に住む人から憧れの地になる、今もなっていると私は思っていますけれども、もっと磨けばですね、もっと憧れてもらえる地域になって、「長野県に住みたいな、長野県へ行ってみたいな」そういう可能性を非常に強く持った県です。昨日、私、東京へ行ってきましたけれども、吉本興業の「こてつ」の2人に観光部長の委嘱をしたノリで、その後も移住交流の話とかしてきましたけれども、その時ちょっと冗談半分で言いましたけれども、東京に来ると、鼻毛が伸びるのが早いと。誰も笑ってくれないですね。やはり空気がきれいではないですね。いつも感じますけど。あと人が多い。人が多いということは元気があっていいじゃないかということの裏返しで、でもやはり限度あるだろうと私なんかは思いますね。電車に乗る時も、人を押し込まないと乗れない、あれが当たり前の暮らしになってしまっているというのは、本当にいいんだろうかと正直思いますね。それから東京の人たちは、今、首都圏直下型地震が起こったらどうしようと心配されている人も多いですし、これから夏に向かって電力は本当に大丈夫かと思っている人たちも多いです。そういう意味で、私たち長野県は他の地域に比べて非常に強みを持っている地域だと思っていますし、私たちの暮らし方をこれからどうしていくかということが、ある意味で、日本全体のライフスタイルをリードしていくことができると確信しています。ぜひ、そういう観点でご議論いただければありがたいなというふうに思っています。

私のあいさつを長くしてはいけませんので、これくらいで止めますが、最後に中期計画について、私がどう考えているかということだけ、簡単にお話したいと思います。今ここにいらっしゃる皆さんは長野県の今の中期計画のタイトルって知っています？ご存知の方？あるいは中期計画にこんなことが書いてあるのでぜひそれをやりたいと共感しているという人はどれくらいいますか？ほとんど私はいないのではないかなと思って実は聞いているんですけど。知事がそんなことを言うてはいけないところはありますけれども。私は、ぜひ、今回作る計画はですね、別に計画書に書いてある全ての物事を知っていなければいけないとは思わないですが、やはり「長野県はこういう県を目指しているんだね」、あるいは「中期計画でこういう理念が語られているので、これは県民みんなやっていこうよ」と、そういうふうに思ってもらえるものでなければ、ただの作文、ただ棚に飾っておいて、何か人から聞かれた時に長野県はこういう計画ですというふうに言うものにはしたくないというふうに思っています。そこは、我々これから工夫しないといけないのですけれども。そういうものを作りたいんだという私の思いをぜひ受け止めていただきたいと思います。

それから、今日皆さんにぜひ知恵をいっぱい出していただきたいと思いますけれども、あえてお願いしたいのは、いろいろな課題があります、山ほど行政がやらなければならない、県政として取り組まなければいけない課題があります。ただ、中期計画、20年後の長野県を考えようという話ですよ。ちょっと大きく出たなと感じはありますけれども、来年の予算どうしましょうということではないということ、ぜひ、頭に置いてください。来年の予算の話になってしまうと、身近なことに引き寄せて、いつもいろいろな方から要請されますけれども、こういう予算を増やしてもらった方がいいのではないかなとかですね、そういう話になりますけれども、20年後ですから、今の予算を前提にする議論なんかではいけないと思います。例えば、今は福祉だとか教育だとか観光だとか、そういう分野に分かれて行政やっていますけれ

ども、20年後本当にそんな分野に分かれているかと言われれば、たぶん私は変わってくると思いますよね。ですからあまり今の枠組みとか、今の仕組みにとらわれずにあるいは長野県が今どういう予算組んでいるからということにとらわれず、自由な視点で本当に20年後どういう長野県にしたいなど、どうあってほしいなということなどをぜひ大胆に話し合っしてほしいと思います。

私さっき議論と使っちゃったけれども、議論ではなく先程話があったように、皆さんの一人ひとりの意見をぜひ尊重しながら、意見を闘い、ぶつけ合う場じゃなくて、それはいいね、その意見に触発されて私もこういうアイデアがあるよと、ぜひ前向きなお話をさせていただければというふうに思っております。

冒頭長くなってしまっていて恐縮ですが、ぜひあの今日は皆さんからすばらしいご提案をいっぱいいただけることを期待しておりますので、どうかよろしくをお願いします。

### 3 第1ラウンド開始

#### 【司会】

これから、意見交換に入りますが、本日の意見交換をより効果的な場にするために、参加者の皆さんにお願いしておきたいことがあります。

まず、話は短く、簡潔にお願いします。何回話しても構いませんが、一回ごとの発言は短くしてください。

また、何よりも皆さんが楽しく会話ができるようお願いいたします。それでは、テーブル・ホストの皆さんよろしくをお願いします。

### 4 ワールド・カフェ方式による意見交換

サブテーマごとに3つのグループに別れ、さらに各グループ内で5つずつのテーブルに別れて意見交換を行いました。

参加者のご意見等については、別に「ご意見への対応状況」として公表しますので、そちらをご覧ください。

### 5 まとめ発表

各グループから、くじ引きで2テーブルずつ発表テーブルを決定し、該当テーブルから発表者1名が意見交換の内容を発表しました。

発表できなかったテーブルへは、司会から補足意見があれば発言するように求めました。

#### (1) グループ1 テーブルD

テーマは、保健医療の方で健康長寿20年後の長野県を考えるということでもあります。

端的に申しますけれども、世代間で共有する健康、若い世代が生き生きしていく長野県、これを今から20年後を目指してぜひ取り組みたいと。今の30代、40代非常に不健康である。その子どもさん、幼稚園、小学校低学年、この親の影響を受けている、20年後考えて、このままでいけばいずれ脱落するであろうということでもあります。特に30代、40代の健康づくりにこれから力を入れてほしい。それから長寿イコール高齢化ではないと。元気で長生きをしていただいで本当の健康な県ができるということだと思います。

地域が活性化すれば目標達成というような話しも出ておりますけれども、もっと具体的に掘り下げて、地域の中で活動されている食生活改善推進員の方々、それから民生委員の方々、保健師の方々の若返りが今必要である。地域が若くならないとこれから先の10年後、20年後は無い。

過日、私共の議会でも地域の開業医の先生方と懇談会をやりましたけれども、今地域の開業医が高齢化によって、市町村から受けている予防接種やいろんな乳幼児の検診を受けることはできなくなるという発言が医師会長さんの方からありました。

したがって、今早急にですね若い世代を、てこ入れする必要があるだろうということでもあります。具体的に先程言ったそういう方々の若返りを図る、それから地域の枠を超えてですね、あまり狭い範囲でやっていると家の中の冷蔵庫の場所までわかっちゃいますから、そうではなくて、近隣の市町村と交流をしながら広域化を図っていく。広域連合の中でやっていけばいいというふうに思います。

高齢化率、即医療費の向上にはならないと。ちょっと小さいデータなんですけれども、見にくいかと思いますが高齢化していけばですね、医療費が上がっていくんだというもっともらしい話がありますが、岡谷市は高齢化率が26.3%で、県下19市のなかで一番の医療費を払っております。ところが、飯山市のようにですね29.9%でありますけれども、医療費が少ないという所もあります。ですから、高齢化率、即医療費が上がっていくことに結びつかないというところを分析すれば、そこから結論がでるだろうということでもあります。

農業、林業、一次産業の活性化が地域を救う。そしてまた、高齢者の就業率が健康を作っていく。65歳過ぎの方々の健康のために一次産業のてこ入れを今から計画して進めていくべきである。退職した高齢者の方々が一次産業、農業、林業、水産業、そこに働く場をもしくはNPOで活動する場を大きく行政がルールを引くことによってですね、そういった方々の高齢者の就業率が上がることによって、健康が保たれて10年後もナンバー・ワンを維持できるのではないかと、こういうことでもあります。

## (2) グループ1 テーブルA

生きがいをもって暮らせる長野県にしたいということ 키워ワードにして考えてみました。地域によっては高齢者を支えるコミュニティがすごく欠如しています。そして、それと同時に核家族化などで隣は何をする人ぞ、じゃないですけどそんなような感じのところもあったりして、どうしても地域のコミュニティがすごく脆弱になっているというようなことに関しては、生涯学習とか研修内容を変更したりとかということ、地域で高齢者を支える、そういうリーダーを養成する、そういうことも大切なのではないのでしょうかということ、それから、だんだんと高齢者が増えていく中で、話しあう

人もいなくなってくる現状が見えてくるんじゃないか、そういう中で世代間の交流をもっともっと大切にしていかなければいけないというような話が出ていました。

その世代間の交流を大切にしていこうという中で、一つの方法としては保育園と老人ホームを一緒にしてお互いに若さをもったり、元気をもったり、それから老人からいろいろな得るものもあったり、そういう中で子どもたちも元気になっていけるということ、それから老人から子どもに対しての教育をする場所を作っていくというのも大事なんじゃないか、そんなようなことが出ていました。

あとは、小さい時からの教育というのもすごく大事じゃないか、小さい時から、中学とか高校とかそういうところで、ずっと折にふれ命とか食とか教えながら、そして次の世代に伝えていくという、そういうことがすごく大事なんじゃないか、そんなような話が出ていました。

### (3) グループ2 テーブルC

私達は長野県を支える産業について話をしまして、私個人の意見もありますけれども、産業ということで一番大事なのは個々で、観光なら観光で、林業なら林業でやるわけではなく、もっと異業種で交流をしていくことによって、20年後、将来色々ビジネスチャンスが開けて、いろいろな可能性を持って産業というものが膨らんでいくのではないかと、そのような話が特にありました。それを進めていくに当たって大事なことは、活力のある人、やる気のある人が核となって、そういう産業を導いていくべきではないか、そのためには個々のいろいろな人が地域で集まっても、やはりやる気、モチベーション、環境など違いはありますので小さいグループ小さな村ならやる気のある仲間どうしでまずやってみて、それにひきつけられていろいろな人がいろいろなことに挑戦する、そのようなことが大事ではないか、そのような話もありました。

そのためにはどのようなことが大事かというやはり今日、こうしてタウンミーティングで交流がありましたけれども、いろいろな業種のいろいろな考え、いろいろな年代の方と話ができることが本当に貴重だと私個人は思いました。今日のような会議をもっとやってみていくことによって様々な可能性が産業としても生まれていくと思います。私自身、若い立場でしゃべらせていただいていますけれども、本当にいろんな方の、年配の方の知恵等もお借りして本当に勉強になる、成長できることも多々ありますので、交流の機会、勉強する機会、そういうものを本当に様々な与えていただきたいとお願いしたいと思います。そのためにも私のテーブルで話があったのは、核となるのはやはり女性ではないかと、いろいろエネルギーを持っている女性にいろいろ推し進めてもらうのも一つの考えではないかと思えます。

長野県は水も豊かですし、森林もたくさんあり、豊かな県です。そういう恵まれた環境を本当にうまく生かすためにも、交流の場をもっと作っていただきたいと思えますので、まとまりませんがよろしく申し上げます。

### (4) グループ2 テーブルE

おかげさまで全ての運を頂戴いたしまして、今日発表ということになりました。これから発表させていただきます。

まず、キーワード的な部分なんですけれども、やはり、長野県のイメージとして、「資源豊富な長野県」というのが一つ浮かんでくるのかなというふうに思います。その中において、現在の一つの課題として、長野県が抱える問題として、やはり人口の減少、特に人口の中でも自然減と社会減という枠になってくるかと思うのですが、特に社会減は今後においても大きい問題・課題につながっていくのかなというふうに思います。例えば、若い人が学校・大学等で県外に行った時にそのまま県外に住みついちゃったと、要するに働く場所とかまた基盤整備等が地元にあることによってIターン、Uターンと言いますか、戻って来られるそういう基盤整備が整っているとやはりそれが戻ることによって生産年齢人口の増加にまたつながっていくという傾向に必ずなるのではないかなということでもあります。

やはりこの中でも、長野県は都市基盤から自然を抱えた一つの県自体がディズニーランド的なそういう大きな枠になるかと思えます。農業、林業、それから観光、商業、工業また身近な環境問題を含めて、一次から六次産業的な要素が一番充実している他にはない恵まれた県であるという部分になってきます。これらを引き出すために、県なり、また地元の行政のバックアップ・力も必要なかなということで、その中でも、今あるもの、場所等をもう一度見つめ直して見直してみるところから活性化につながる一つのヒントというものが出てくるのかなというものであります。

意見の中に20年後を考える前には20年前はどうであったか、20年前を思い起こしてみようという意見もありました。高速交通網が整備をされて、時間をお金で買う時代になってきています。意外とそういう部分の中で遠くだけを見てしまって、速く移動するという分だけに目が行ってしまいがちの部分の中で、やはり長野県には非日常的な良さが一つの魅力として残っているものを磨きをかけた中で、見るだけでなく、食、それから滞在する時間を作り出していけるようなものというものが今後の中に大切なのかなというふうに、いろんな意見をまとめさせていただく中であります。

#### (5) グループ3 テーブルC

うちの班で出ましたのが、キーワードとしまして「豊かな長野県」というキーワードで話し合ってきました。「豊かな長野県」というのはですね、余裕があって普通の暮らしができる長野県ではないかという意見が出ています。この豊かな長野県につなげるためにも、課題となってくるものが、長野県民は余裕のない日常生活を送っているのではないかという意見が出ました。こういった余裕のない日常生活があるからこそ、長野県にあるものに目が向いていないのではないかという意見も出ています。

また、豊かさとは何かという価値観を同じ地域に住む県民で共有できていないという意見もありました。

このような課題があるのですけれども、この課題を解決するためにうちの班で出ましたのは、「週休3日から4日」という案です。この時間を利用して農業や担い手育成に目を向けて長野県を豊かにできるのではないかなという意見がありました。

もう1点ですが、長野県民が協働することで、豊かな地域社会ができるということ、このような話し合いの場をたくさん設けていったらいいんじゃないかなという意見が出ました。

## (6) グループ3 テーブルD

みんな憧れる長野県の暮らしにつきまして、うちのグループでは良いところを伸ばしていくこと、若者に長野県の良さを知ってもらうことと、農業の意見が多かったと思います。

次にあるべき姿に近づくための課題や実現のために障害となることとしまして、新たな事をするにはハードルが高かったりですとか、長野県の住民や若者が良さに気づいていない、また憧れる暮らしのイメージを持ってもらうことが大切であり、自分自身が住んでいる地域を知り、何が必要であるか考えることが大切であるという意見が出ました。

私の意見を踏まえさせていただきますと、長野県のあるべき姿は「やさしい心を持った長野県」といたしました。私も他県で暮らしたことはありますが、道を聞いた時に怯えたりですとか、されたことがあります。私自身が悲しい思いをしたことがあります。長野県に帰って参りまして、同じ質問をいたしましても笑顔で答えていただいたことがありました。

あるべき姿に近づくための課題や実現のための障害となることとしまして、まず、長野県の県民性が障害になるのではないかと。それが、引っ込み思案であるですとか、うちに込めるところがあるのではないかと考えております。あるべき姿に近づくための課題としまして、自分から心を開くことが大切であると思います。県民はやさしいので手を貸してくれると思います。

どのような方法やアイデアで課題を解決し、障害を乗り越えてあるべき姿に近づくかということですが、まず長野県の県民性をもう少しより良いものにするのではないですが、引っ込み思案をもう少し外に広げること、自分から心を開くことによってコミュニティが形成されると思います。コミュニティの間では貸し借りや協力が可能です。他のコミュニティ同士の交流をすることによって輪は幾重にも重なると思います。まずは土台を作ることとしまして、コミュニティの形成を挙げました。

20年後は協力によって自然エネルギーを使った持続可能な社会ですとか、ゆとりある暮らし、地産地消また地産他消も大事であると思います。県からのコミュニティが他県、それを飛び越え世界へ向かって行ってほしいと思っております。

## (7) グループ3 補足意見 テーブルA

うちの班も3のCとかDの方もおっしゃっていたことだと思うのですが、我々の話すテーマはみんなが憧れる長野県の暮らしについてということですが、そもそも憧れるに値するものをたぶん長野県の人たちなり長野県は持っていると思うんですね。ただそれを県民そのものが自覚していなかったりですとか、それをうまく表現できていないが故に、逆をいえばこういうテーマで話し合わなければいけないような状況になっているのかなというふうに思って、ここをどうやって自覚し表現していくかということが重要なのかなというふうに思いました。そのことだけ付け加えさせていただきます。

## 6 全体意見交換

【司会】

そろそろお時間ですので、全体を通しまして何か他の分野でも構いませんので、ご意見ある方お話しただければと思いますが、いかがでしょうか。

#### (1) 参加者の意見 1

県民性のことで、私は県外から来て35年になるのですけれども、決して引っ込み思案ではありません。というか、あえていうなら、あまり人を褒めるがうまくないので、人を気持ちよくさせるといふ部分が下手なので、もうちょっと人を褒めたり気持ちよくさせてくれたらもっともっと人が集まると思います。お願いします。

#### (2) 参加者の意見 2

若者がいったん出てしまうし、若者を連れてくることは結構大変なのでおじいちゃん・おばあちゃんから一気に孫に伝えればいいのではないかとということで、本当に小さいうちから農業体験をしたり、おじいちゃん・おばあちゃんの知恵を幼稚園とか学校とか通じて伝えていければいいな。20年後なので今生まれた子も二十歳になりますから、今からでも間に合うと思いました。

## 7 知事あいさつ

### 【長野県知事 阿部守一】

どうも皆さん長時間ありがとうございました。発表できなかった班もありますけれども、それぞれの班の結果を全部まとめてもらうということでいいんですよね。皆さんに記入していただいた意見はぜひ我々の検討に役立てさせていきたいと思えます。

いろんなご意見が出たわけですけれども、ちょっと私も簡単にコメントさせていただくと、健康長寿の話でも産業の話でもやはり、交流の話と世代という話が出ていて、今どうしても学校の世代間で一緒に遊んだりすることが減ってしまっていますし、とりわけお年寄りと子どもたちが触れあって元気を与えあって、そして知恵を伝えるというものが、長野県はまだある方だと思えますけれども、日本全体が欠落してしまっている中で、教育の問題も含めて考えていかなければいけないと、今日は全然教育というテーマは入っていないのですけれども、いろんなところで子どもの話が出てきたし、世代間の話も出てきたので、この教育の話はぜひしっかり考えていかなければいけないと思えます。

それから、これは言わずもがなで、出てこなかったですけれども、自然だとか景観だとか水だとか空気だとか、それはおそらくここにいる皆さんは共通認識としてそれは長野県の良さだということ、私の入っていたグループでもそういう話は出てきましたけれども、それはもう前提として議論されてきているのではないかというふうに思えますが、県としてはそういうものをしっかりと守っていききたいというふうに思っています。

それから、異業種交流とか人の交流の話とリーダーの話がありました。これは、ぜひいろんな分野で中心になって引っ張ってもらう人作り、長野県は教育県といわれてきたわけでありますから、子どもたちの教育という面だけではなくて、それぞれの分野それぞれの地域を引っ張っていただく人作りということが大変重要だと思えますし、今日はここに来る前に、現場か

ら社会保障を考える懇話会っていうのをやってきたんですけれども、そこでは障害者をどう支援するか、地域でどう支えるかについて話してきましたが、そこでもいろんな人たちがとにかく集まること、産業にしても教育にしてもいろんな知恵とかいろんな組織の人たちが集まることだと。そしてひとりではできないことでも何人か集まれば必ず実現できると思います。長野県はまだある方だと私は思いますけれども、そういう場がやっぱり必要なんだと改めて思いました。県もそういうことはしっかりやっていかなければいけないと思います。

あと、私のグループは暮らしの話だったけれども、私は自分でこう書いたんですよね。20年後の長野県のあるべき姿のキーワードってところは「仕事以外で忙しい信州人」。仕事が忙しいということも経済が活力があるという意味で良いことだと思いますけれども、都会の人たちは仕事で忙しいんですよ全部。仕事で忙しくて通勤時間が長くて家に帰っては寝ているだけと。長野県の人たちは忙しいんですけれども地域の活動だったり、自分の余暇だったり、そういうところで忙しい人が多いんで、もう少しそういう良さを際立たせたいなど、地域・社会活動が活発である長野県、そして仕事はゆとりがある長野県、そういう県がいいんじゃないかということで書いたんですけれども、いろいろ課題は多くあると思っております。ただ、私はずっと教育について触れていますけれど、子どもたちに地域に対しての誇りと自信を持ってもらうこと、地域をよく知ってもらうということがどうもいろんな分野共通のテーマかなというふうに改めて思っています。

あと、私が議論に加わっていた中で気になったキーワードが「老婆心」という言葉があって、これはさっきのお年寄りから子どもへというところもありますけれど、人と人とが支え合い協力し合うという中で、下手するとお節介ということになっちゃうのかもしれないけれども、やっぱり「老婆心ながら」というのは、実はいろんなことを考えていく上で重要なキーワードではないかなというふうに思いました。

いずれにしても皆さんからいただいたご意見を我々の方で整理して中期計画の策定に反映させていきたいと思っておりますし、今回作っていきます中期計画を冒頭申し上げましたように神棚に飾るような計画にしたくないというのが私の思いでありますので、ぜひ皆さんと一緒に行動できる目標を目指せる計画を作ります。ぜひ一緒に計画策定、そして計画を作った後の行動に参加をしていただくようお願いをして、そして長時間皆さんに熱心にご議論していただきましたことに対しまして改めて感謝、御礼を申し上げます。

ありがとうございました。